



事務所：長野県伊那市西町 5016-2 電話 0265(76)5858 例会日：毎週火曜日 例会場：海老屋料理店 0265(72)2158
 会長：藤澤健二 副会長：伊澤和男 幹事：多田浩之 公共イメージ向上委員長：三澤耕太



2020-2021 国際ロータリーのテーマ
ロータリーは機会の扉を開く

2020-2021 RI会長
 ホルガー・クナーク
 <ドイツ>



第1573回例会 令和3年3月16日(火)

■ 点 鐘 12:30

■ ソング 翔け 中央ロータリー 平澤理ソングリーダー



■ ゲスト・ビジター紹介

伊那市社会福祉協議会

- ・ 地域福祉課長 矢澤秀樹様
- ・ 地域福祉課 生活相談係長 伊藤直哉様



■ 会長談話 藤澤健二会長



こんにちは。私が出席する3月最初の例会です。会長でありながら例会の欠席をさせて頂き有難うございました。妻が亡くなってから一か月程が経ちます。葬儀では沢山の方から御焼香とお悔やみの言葉を頂きました。また、今回のことで改めて感じたことがあります。人も物も生きとし生けるすべて個々に違う人生があるように寿命があるということ。時間は有限で有るからと“いつかは、”と思いがちですが、残念なことに、そこには常に不公平と言うことが横たわっている。一日一日を大切に後悔のない人生を過ごしたいと思えます。

葬儀の仕事をしているからと言う訳ではないのですが、理屈だけでは到底理解に苦しむ様なことも有ります。実は…。母親が亡くなり49日の法要も終わり幾日か経ち自宅のリビングで飲み過ぎて寝ていたのですが、夢枕に母親が現れ一言いいつつ手を振り去っていく夢をみました。私は母に「とつくに49日は過ぎてきているのに、どうしたの？」と聞いた途端に夢から醒めたのですが、なぜ母が夢の中に現れて何を伝えていたのか？これは何かあるかと思ひ、寝ぼけ眼の頭で、ぼんやりと考えカレンダーで数えたところ暦の上では49日目でした。自分では自分なりに死ぬような思いはしたことが有るつもりですが、友人から聞いたことはあっても自分では臨死体験さえも経験をしたことはないのです、確信は有りませんが、亡くなってから49日間はこの世にいるのだと思える出来事でした。口には出さなくても伝わる思いがあるように、何か言い残したことが有る方は残っているのかと思えます。

さて、最後になりますが、妻は亡くなる前に子供に戻り夢の中で話し掛けていました。若くして亡くなり、やり残したことが沢山あるから、多分、もう一度人として生まれ変わってくるのだと思えます。

いかがでしょうか？最後をむかえた時に、もう一度生まれ変わりたいと思えますか？それとも、若い時から苦勞をして、やり残したことがなくて、良い人生だと振り返った時にもう一度生まれ変わりたいと思えますか？

以上、短いですが今回の談話とさせていただきます。

■ 幹事報告 多田浩之幹事 幹事報告は別紙をご覧ください。



■ 委員会報告

・3月7日（日）上伊那グループI.M.の報告 多田浩之幹事



3/7（日）に2020-2021年度 上伊那グループI.M.がオンライン（Zoom）にて開催されました。前回卓話で当会にお越しいただきました関邦則パストガバナーから「The Rotary Motivation」（関邦則パストガバナー著）の冊子についてご説明いただきました。記念講演では昭和伊南病院の堀内先生からイグノーベル賞受賞の経緯、内視鏡学会において駒ヶ根方式といわれる、その日のうちに内視鏡検査ができるシステムをご紹介いただきました。実は私の主治医が堀内先生でして、一昨年大腸憩室からの出血で入院をした際、先生が忙しく学会で出張されていてなかなか輸血をしてもらえなく死にかけた覚えがあります。皆様においても、昭和伊南病院は朝8時半に車で行けばその日のうちに大腸検査をしてもらえるので、是非検査に行ってください。報告は以上です。

■ ニコニコボックス

- ◆藤澤健二 長い間お休みをさせて頂いておりました。妻の葬儀ではお世話になりました。残り数少ないですが足らなかった分を取り戻すつもりで頑張らせて頂きます。また、社会福祉協議会から矢澤様・伊藤様、卓話をよろしくお願ひします。
- ◆多田浩之 伊那市社会福祉協議会 地域福祉課長 矢澤秀樹様、地域福祉課 生活相談係長 伊藤直哉様、本日は卓話を宜しくお願ひ致します。
- ◆宮下健 大変お忙しい中、社協の矢澤様・伊藤様、本日はありがとうございます。又、昨夜は会長にジンギスカンをご馳走して頂きました。毎月お願ひします。
- ◆池上幸平 ISO 14001のサーベイランスが終わりました。指摘事項等は無く審査が終わりました。皆様安心して荷物を当社にどんどん出していただければと思います。

■ 出席報告 会員数46名 出席免除会員5名 長欠会員2名 本日出席者24名 事前メイク6名
出席率76.92% 前回出席率 修正なし

■ 卓話

伊那市社会福祉協議会

- ・地域福祉課長 矢澤秀樹様
- ・地域福祉課 生活相談係長 伊藤直哉様



1：社会福祉協議会の概要

伊那社会福祉協議会という団体は、社会福祉法人という形で団体化されているもので民間の団体です。市内に社会福祉法人というのは8団体ございます。保育園が2つ、児童養護施設が1つ、高齢者施設、障害者施設等です。

社会福祉協議会を名乗れるのは、各自治体で1団体です。これは法律上で決まっております、社会福祉法人はいくつでもできるのですが、社会福祉協議会は各自治体に1つしか作ってはいけないという決まりになっています。十数年前に伊那・高遠・長谷が合併した際に、3つ社会福祉協議会があったのですが、1つになり伊那社会福祉協議会となっています。近隣の南箕輪村、箕輪町、宮田村、それぞれに社会福

社協議会が1つあるとお考え頂ければと思います。

この社会福祉協議会の役割は、「自分たちの住む地域の『福祉(みんなの幸せ)』を推進する住民組織」です。4つが法律上で定められている我々の仕事です。

①社会福祉に関する活動への住民の皆様のお手伝い

ボランティアの育成、地域の福祉活動等

②社会福祉を目的とする事業を企画して実施

デイサービス、高齢者、障害者のための支援等を考え指示する。

③事業をする際に、調査をしたり、実際にその制度を普及させたり宣伝

本日のこのような卓話や講演の機会も宣伝の1つです。

④その他の社会福祉を目的とする事業

福祉の総合商社だと思って頂ければイメージは湧くと思います。団体と団体、組織と組織の繋がり役、利用者さんや住民の方々と提供側を繋いだりもします。自分たちでサービスを開発して、自社ブランドとしてサービス提供も行います。そのようなイメージでお考え頂ければと思います。

また、福祉を推進する組織として、福祉に関しては今幅がとて広くなっています。昔は、障害者、高齢者、児童福祉の3本柱でしたが、今はかなり広がっていて、例えばボランティアや地域づくり、災害支援、今年の19号台風の際には、上伊那郡内の住民の方々を集めてバスで長野の方へ支援に行きました。実際にこの地域で災害が起きた時にボランティアセンターを立ち上げるのは、私たち社会福祉協議会です。

また、住まいの確保に関して、福祉教育といった教育の分野に関して、また就労に関して、外国籍の方に関して、そして地域からの孤立に関して、これらが福祉に入り、幅がかなり広まっている状態です。時代に合わせて、福祉の支援をしていく、その仲介や調整をしていくというのが社会福祉協議会の役割になっています。

組織についてご説明いたします。会長以下事務局長、次長とおりまして、その下に3つの課がございます。総務課、地域福祉課、業務課です。地域福祉課が、私が所属する課です。ここでは、地域づくりやボランティアの育成などを行い、生活に関する総合相談の窓口も行っております。業務課というものが、かなりウエイトが大きくなります。障がい者や高齢者への実際のサービスの提供を行っている部署です。「あいなちゃん」というキャラクターが描かれた社協の車が市内を走り回っております。それら多くは、業務課の車です。現在、240名程の組織です。パンフレット表紙のピンクのキャラクターが「あいなちゃん」ですので、こちらのキャラクターが描かれた車を見かけたら、社協が活動しているなと思って頂ければと思います。

2：フードバンク・フードドライブについて

フードバンク活動ですが、「フードバンク信州」というマークがございます。これは県のNPO団体で、全県でフードバンク活動を行っているものが長野市にあります。フードバンク活動の役割は、大きく分けて2つあります。

①食の循環

廃棄するようなものを無くし、必要な人に届けましょう「もったいない」を無くそうという役割

②貧困の問題

高度経済成長の中で、この貧困問題は、長らくこの日本の福祉の中にはありましたが、コロナ禍でこの生活困窮がかなり顕在化してきました。今まで見え辛かったものが、かなり見えてきています。個人レベルでは解決できない社会課題となってきています。「個人がなんとか努力してうまくやりなさい」とはいかなくなってきている事が、問題となっています。伊那市の場合は、総人口は減っていますが、世帯数は増えています。核家族化が進んでいるという事になります。昔は家族で解決できた問題が、今はそれができないという事です。

文言を確認したいと思います。フードバンクとフードドライブと2つあります。フードドライブの「ドライブ」とは、「寄付」という意味です。個人や団体から寄付を集める行為をフードドライブといいます。それを受け取り、回す仕組みを「フードバンク」といいます。

現在伊那市でも、フードバンクに関して課題があるということで、令和3年度からフードバンク伊那を立ち上げるために、研究をスタートさせています。これはまだ案の段階ではありますが、皆様から

頂いた食料を、担当者が届けていくという動きができたらと思っています。
～フードバンク伊那イメージ図参照～

3：生活困窮者の現状について

困窮・貧困という言葉は、長らく日本の中で使われてこなかった言葉かと思います。福祉は最初から、貧困・困窮をテーマに発展してきました。高度経済成長の中で、隅に追いやられ、今またコロナや、十数年前のリーマンショックの影響で困窮というものがメディアで取り沙汰されています。

湯浅誠さんという、リーマンショックの時に「年越し派遣村」を行った方がいるのですが、その方の講演を昨年聞く機会がありまして、「貧困というのは古くて新しい問題だ」という言葉がとても印象に残っています。というのは、最初から福祉は貧困をテーマにしていたにも関わらず、貧困は無くなったわけではないのに絶対数が少なかったために隠れてしまって、リーマンショックやコロナで生活困窮の方が今また見えてきたと思います。この田舎でも、車中生活になってしまっているという人が実際にいます。リーマンショック時に「伊那でもついに車中生活者が出たか」と衝撃を受けた記憶があります。今またコロナの影響で車中生活になってしまった方もいます。

リーマンショック後に生活困窮者自立支援法というものができまして、そこで「まいさぼ」という生活困窮者の相談を受ける機関ができました。社協も伊那市からの委託を受けて行っております。

2月末時点での延べ相談件数ですが、1939件となっています。昨年度比は2.1倍、新規の相談者が241名、昨年度比2.5倍です。年代を見て頂きますと、30代が112名で、他の年代と比べると多くはないのですが、昨年度比4倍という数字になっています。40代が一番多くて214名。30代・40代というのは、いわゆる就職氷河期世代。私も就職氷河期世代の一人で、まさに就職氷河期のど真ん中の世代です。実は福祉の業界では、就職氷河期はあまり影響がなく、卒業する3月くらいにいきなり就職が決まるという人も大勢いました。ただ、一般企業を目指している人はかなり難しく、大変だった時期です。そのため、派遣労働という不安定な仕事に就かざるを得なかった人も数多くいました。そのため、ここでコロナによる影響を受けて、派遣の仕事が無くなってしまい、相談にみえた方が多数いたのかと思います。60代以上の方も相談にみえておりまして、50代・60代の方は就職氷河期ではありませんが、不安定な労働をされてきた方の相談が多いかなと思います。男女比ですが、この時期に関しては男性の方が非常に多く昨年度比2.9倍です。例年では女性の方が多いのですが、今年度はそれが逆転しています。やはり派遣の影響を受けている方が多いのかなと思います。

相談内容は、収入生活費についてが、昨年度比2.5倍で、貸付の方の相談に含まれています。次に家賃の相談、これは昨年度比17.5倍で非常に多くなっています。家賃補助の事業がありますので、その相談が増えているものと思われれます。そして求職・就職の相談です。こちらも昨年度比1.9倍と増えています。

続いて生活福祉資金の貸付についてです。コロナの影響を受けての、特例貸付というものをちょうど1年ほど前から開始しており、3月末で終了予定だったのですが、新聞報道によりますと6月まで延長されるそうです。まだ実施団体である県の社協には国からの連絡は来ていません。当初7月までだったものが9月まで、9月までだったものが12月まで、12月までだったものが3月末までと、3回の延長を繰り返しており、今回さらに延長すると、4回目の延長となります。1年間こうした相談を受けていると、相談の内容がコロナの影響を受けているものなのかという判断が非常に難しい状態です。緊急小口資金というものが、一度お貸しして、こちらが上限20万円ですが、361件、約6千200万円。小口資金を一度借りてもまだ生活が厳しいという方は、次の総合支援資金（初回）を借りて頂く。こちらが一番多くて166件、約8千100万円となっています。またさらに延長、再延長と貸付があり、伊那市内で合計577件、約1億6400万円を貸し付けているという状況です。

家賃補助、住居確保給付金というものがありまして、3ヶ月～最大12ヵ月まで給付が受けられるのですが、例年数件しかないものが、今年度は数多く、合計給付金は約425万円となっています。

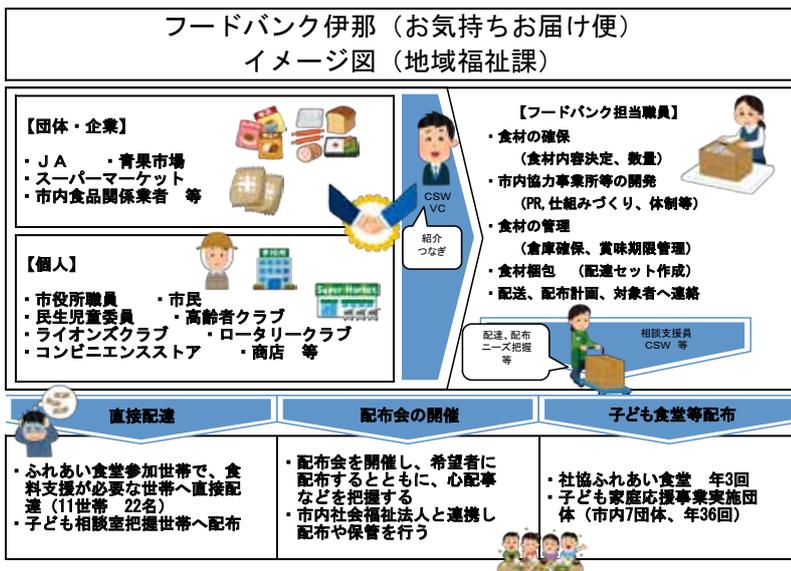
～別紙資料参照～

フードドライブ事業に関しては、まだ本格的に活動できてはいませんが、資料に記載しているような食品を今年度寄付して頂きました。これが多いのか、少ないのかというと、実はコロナの影響で4月からの寄付がほとんど無く、非常に困りました。これは在庫が無くなってしまいうのでは・・・と思いましたが、今年度後半に色々な団体から「例年通りの活動ができない中で、コロナの影響で生活に困窮し

ている方がいるとのニュースを見るので寄付をしたい」、あるいは「金銭的な寄付はできないが、余った商品を使ってほしい」と例年より多くの商品の寄付を頂き、とても助かりました。

ふれあい食堂については、あまり公にはしていない事業であります。その理由は、ひとり親家庭や生活困窮者など、ターゲットを絞って実施していますので、宣伝はしていません。こども食堂のように、ニュースなどで取り扱われ、ご覧になる方もいらっしゃるかと思いますが、我々社協のように公にせず活動しているものもあります。今年度はコロナの影響で子どもを大勢集めることはできなかったため、組合せをして実施しています。春休み中に関しては、3月18日～26日までの7日間、実施する予定です。

最後に、ひとり親家庭へのお米支援ですが、社協にはお米の寄付をたくさん頂きますので、10キロほどに分けて、ひとり親家庭にお渡ししています。ひとり親家庭全世帯ではありませんが、合計約250世帯に社協からお知らせをお送りし、6割超の世帯から実際に取りに来て頂きました。利用者の方の声を聞くと、「食べ盛り・育ち盛りの子どもがいるので、お米があると助かります」「コロナの影響で給料が減り、食事を節約しているのでとても助かります」という声や、減収はないが貰えるものは貰っておこうという方もいました。ひとり親というと、母子家庭の方が多いと思われる方もいらっしゃいますが、中には父子家庭の方もおり、まいさぼへの相談の中にはお父さんからのご相談もありました。子ども3人を抱えているなかで、借金もかさんでしまった。そういった借金についての相談も社協にて受けております。



○まいさぼ伊那市への相談 (R3.2月末現在)

・相談件数(延べ)	1939件	昨年度比2.1倍
・新規相談者	241名	昨年度比2.5倍
・年代	20代 100名	昨年度比1.5倍
	30代 112名	昨年度比4倍
	40代 214名	昨年度比2.4倍
	50代 198名	昨年度比2.7倍
	60代以上 153名	昨年度比2.4倍
・男女	男性 470名	昨年度比2.9倍
	女性 357名	昨年度比2倍
・相談内容	収入生活費 561件	昨年度比2.5倍
	家賃等 490件	昨年度比17.5倍
	求職就職 299件	昨年度比1.9倍

○生活費の貸付(生活福祉資金の特例貸付)

・緊急小口資金	361件	約6千200万円
・総合支援資金(初回)	166件	約8千100万円
・総合支援資金(延長)	47件	約1千900万円
・総合支援資金(再延長)	3件	約150万円
合計	577件	約1億6400万円

○フードドライブ

・寄付していただいた食材(個人、団体、市役所)			
・お米	約2100kg	・調味料	約120点
・麺類	約540点	・野菜	約20点
・缶詰	約500点	・菓子	約80点
・レトルト	約270点	・その他	約740点

○ふれあい食堂
・学習と配色の組合せで実施

○ひとり親家庭へのお米支援

■ 点 鐘 13:30

次回例会

3月30日(火) 点鐘 12:30 場所 海老屋料理店

- ・加藤篤会員卓話
- ・支援留学生サンジーワさん送別の会